

# 大垣真宗学院 同窓会

## 同窓会報 第3号

発行日 2010年8月27日  
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11  
大垣教務所内  
電話 0584-78-3363  
FAX 0584-78-3353  
郵便局振替口座番号 0830-7-206305



### 第三回大垣真宗学院同窓会を迎えて



同窓会副会長 高垣 康平（一九八九年卒、岐阜）

同窓会会員の皆様には、いよいよ御清祥のごとお慶び申し上げます。

お除祿で大垣真宗学院同窓会総会は去る六月五日、大垣教区同朋会館にて盛会の内に終了することが出来ましたこと、ご報告申し上げます。総会開催にあたって会員の皆様には出欠を問わずご支援ご協力を賜り誠に有り難うございました。

総会には会員二十七名、先生四名計三十一名の御出席をいただきました。日豊教区から岡崎、名古屋、三重、長浜、高山、岐阜、福井、地元大垣と遠近に関わらず、お集まりいただいたこと役員一同安堵し、感激したところであります。

本会の会員数は本年六月現在、五百九十六名でございます。今回の案内はがきを全会員様宛にチェックにチェックを重ねてもらわず投函発送し、返信を三百九十七通頂きました。この数字が多いか少ないかは分かりませんが、中には熱い一口メッセージを書き添えられた方もあり、はがきに込められた重さを感じさせられました。そして、この重さのなかに大垣真宗学院同窓会法友の繋がりを確認出来るのではないのでしょうか。石の上にも三年。実際は二年目、石の上にも冷たさから温もりへと変わる気配を感じながら、本会の目的「会員相互の交誼を篤くし」が育っているものと思えます。

総会のメイン特別講義は鷹橋賢由先生にお願いし、「ただこのことひとつ」と題された講義を拝聴いたしました。昭和三十一年の宗門白書から始まって唯信妙文意を引かれ、先生の獅子吼は止むことを知らないほどでした。そのお言葉に、あれもこれももうたがうことなくむさぼり、その上にあぐらをかいている自分が照らされたことでありました。

その後、お楽しみみの懇親会会場へと移動。大垣で木曾路（庄屋）とは、ややいぶかしく思われたかもしれないかもしれませんが、肩のこらない和気あいあいのまま、懇親を深めました。本会も暗中模索しながら前向きな姿勢には変わりありません。今後とも会員皆様の同窓会へのご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「毎日が人生最後の日であるかのように、毎日を永遠に生きるかのように、生きる」。鷹橋賢由先生からある時間いた言葉が、私の耳に残っています。

# 大垣真宗学院の動き

十八名が卒業 入学は二十五名

二〇〇九年度卒業式は去る三月二十七日、教区同明会館で行われ、カリキュラムを終えられた十八名が新たな志を胸に卒業されました。

また、二〇一〇年度入学生は、土曜昼間コース十八名、夏期集中コース七名の計二十五名でした。教区別に見ると、大垣十名、岐阜四名、名古屋四名、長浜三名、三重三名、岡崎一名です。

学院では八月現在、土曜昼間十七名、土曜夜間十二名、夏期集中二十二名の計五十一名が日夜勉強に励んでいます。



## 学院長の交代

このたび、六月三十日付にて大垣真宗学院長の澁谷昌大垣教務所長が定年退職されました。同日付にて海老原章組織部次長が所長に兼任され、新しく学院長に就任されました。



澁谷 昌  
前学院長



海老原 章  
学院長

澁谷前学院長には在任中、学院の運営に何かとご尽力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。海老原新学院長は三重教区のご出身です。今後ともご指導のほど、宜しくお願いいたします。

## 片野・高木両先生のご退任

長年にわたって学院

でご教授を賜りました仏教学の片野道雄先生（大垣教区第四組 浄光寺）と声明の高木鴻子先生（同第二組 祐念寺）が、二〇〇九年度をもってご退任されました。片野先生は一九七五年から、高木先生には二〇〇〇年より教鞭をとっていただきました。両先生にはとても親身にご指導いただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新任指導を委嘱

二〇一〇年度より、新任の指導に藤江充氏（大垣教区第一組 明寂寺）と林文照氏（同第十二組 林正寺）が委嘱されました。藤江氏は声明を、林氏は仏教学を担当されます。

## 公開セミナーのご案内

本年度大垣真宗学院公開セミナーが好評開講中です。九月からは鷹橋賢由先生の「唯信抄文意に学ぶ」（全五回）がスタートします。飯山等先生の「浄土論註に学ぶ」（全十三回）、大城邦義先生の「大悲に学ぶー観経四帖疏講義ー」（全七回）は開講中です。ぜひ、受講して聞法の歩みを深めてください。



高木 鴻子  
先生



片野 道雄  
先生



林 文照氏



藤江 充氏

開講時間は各回土曜日午後二時四十五分～同四時十五分。会場は大垣別院内真宗学院教室または大垣教区同明会館。聴講料は一回五百円。詳細は大垣教務所、電話〇五八四（七八）三三六二まで。

講義日程は次の通り。

- ▼「唯信抄文意に学ぶ」 九月二十五日、十月十六日、十一月二十日、十二月二十五日、二〇一一年一月二十二日
- ▼「浄土論註に学ぶ」 九月四日、十八日、十月九日、三十日、十一月十三日、十二月十八日、二〇一一年一月八日、二月五日、十九日
- ▼「大悲に学ぶ」 十月二日、十二月四日、二〇一二年一月二十九日

## 第二回 大垣真宗学院同窓会

開催 二〇一〇年六月五日  
総会 大垣教区同明会館  
懇親会 宋魯路大垣店



総会では事業報告や会計予算案などをご審議いただきました。



「ただこのことひとつ」と題して鷹橋先生から講義いただきました。

# 学院同窓会に参加して

「衆生不往やっばりおいらは」



藤守 博

(一九九六年卒 高山)

十五年前の卒業レポートの折、対応に困っている私に、飯山先生は「如来不來、衆生不往、但一念帰命、感應道交故、本願不虛」の文を教示して下さいました。大城先生は「聞、鷹橋先生は「G寺さんにちゃんと教えてもらいなさい」。今回の同窓会に参加し、鷹橋先生の特別講義「ただこのことひとつ」を聞きながら、これらの言葉が浮かんでいました。昨秋、二十年余り続けた仕事を辞めていたこともあり、同窓会にやっとなら出そうという気になった訳です。

卒業記念講演では「水馬へみずすまし」しきりに円をえがける。なんじ何処より来たり何処へ帰せんとするやへ。忙しいおましてなよ」の詩を示され、「学びへの姿勢を忘れないでよう」と思ったのに、この詩のままに押し続けてきて月日は十五年が流れた。この根性死ぬまで直りそうにない。で、今回参加目的は次のような魂胆だったので。

私は歌が好きで、ここ数年飛騨地域の各地域やお寺さん等で、懐かしい歌なんかと一緒に歌わせてもらっています。たまたま同期の方、郡上市のお寺さんにこの七月寄せてもらえることになり、有頂天になっている所への同窓会の案内、「もしかしらら美濃の方へも？」と下心満載でやってきました。気の弱さもあり話せる方は少なかったのですが、魂胆はある程度成功？、心優しい方が話を聞いて下さいました。とてもうれしかった。若いこの身は変わったけれど大垣別院の風景はあの時のままで心地良かった。

「このことひとつ」から一番遠い自分、頑固満タン、我不往、「聞」の響きを頼りに手を合わせてはいるけれど手が合わさる日は来るのだろうか？  
本願慮しからず。曾我量深師の「本願不虛」の色紙が

新潟の曾我記念館にあるそうである。是非行ってみよう。迷走いや迷歩の日々を歌い続けていきながら。



「同窓会に寄せて」



加納 正博

(二〇〇七年卒 岐阜)



内に向かう、という言葉聞いたことがある。内に向かうとは内向的になるということではなく、私が私を知り、他者の存在に気づく、知ることではないかと思えます。

仕事をするということは、製品を作り上げて代価をいただくということである。共同作業の工程の中で私を出せば、製品は均一のものでなくなるし、品質は良くなる場合が多くなる。まれに良い結果を生むこともある。私というものがなぜ出てくるのか、たいていの場合、心のバランスを欠いている時か、身のバランスを欠いている時に強く表れる。他者は存在し得ない。あるのは私だけである。外に向かっている時である。

そのような言動を否定したところで生前の祝意である。空とか、無を押しつけた所で附に落ちてゆかない。より外に向かうか、内向的になるだけで、逆の作用をするように思える。

空の機とは、私という心がなぜそのように動くのか、さらになぜそのように動くのか、またさらになぜ心がそのように動くのか、知ってもらうこと、納得しても

らうこと、他者の存在を認めてもらうことではないか。私が仕事を通じて気づいたことである。教科書にない先生方の言葉が印象に残っている。学院での学びは私にとって大切なものになっている。学院では、緊張感のある楽しさをもって過ごさせていたいただきました。感謝。



「大垣高等学院夏季学校の思い出」



若山 章人

(一九七一年卒 大垣)

六月五日に開催の第三回大垣真宗学院同窓会に初めて参加させていただきました。卒業年次順の参加者名簿を見て驚きましたのは、小生の名前が上から二番目にあつたことでありました。誠に光陰矢の如し、あつという間の四十歳の歳月を感じたのであります。

その当時、三年間の夏季学校で学んだ同僚はどなたも出席されておられませんでした。唯一、真宗学を教えていただいた鷹橋賢由先生ご健在のお姿がありました。同窓会当日、先生から記念講演をいただきましたが、そのお姿は四十年前のまきにお姿でありました。やさしさの中にも眼光鋭いまなざしは少しも衰えを感じませんでした。先生の頭髪も黒々、ふさふさ。一方、同じ星霜を経ながら小生の目はいまだに魚の腐ったような域を出ず、頭髮も風前のともしび。内心、赤面の至りでありました。

教師の資格をいただきました。三十年近くは関東の

地でサラリーマン生活をしておりましたが、その間、学びを深めたいという思いは強く、「歎異抄を聞く会」「生と死を考える会」「南無の会」、本郷の学士会館での仏教勉強会、しばらく後は真宗会館での勉強に足を運びましたが、相変わらず腐った根性は変わりませんでした。

今回、いろんなご縁で五年前に単身当地に戻って参りました。地域の世代交代も進み、うらしま太郎の感が否めませんが、大垣教務所や大垣別院で学ぶ機会もあるようですので、老体に鞭を打って、今後とも、腐った根性を抱えながら間法を重ねていきたいと考えています。

「同期の友を思う」



加納のふ美

(一九九二年卒 大垣)

第三回学院同窓会に出席して一週間が過ぎた頃、学院で一緒に勉強したTさんの訃報を耳にしました。いつもゆったりとして笑みを湛えていた彼女。思い出が胸裏を駆け巡りました。Tさんは教員を定年退職後、ご住職が亡くなられたため、この学院の夏季講習に通って一生懸命取り組んでこられました。思えば、ちょうど私の年齢位だったと思います。

滋賀県から毎日早朝からの通学、とてもえらかったと思います。卒業後は法務はもちろん、鐘樓堂の新築、その落慶法要も務められ、大きな責務を果たされました。また、当時、女性住職はおろか、女性の代務者に立つことへの困難さがありました。

そんな困難した中で、本務を諦めながら一生懸命ご同行の方々と共に生きてこられ、多くの足跡を残されたのです。本当に充実した生き方だったと思います。

今の自分に、もっと元気を出し、邁進しなければ!と、後押しされているような気がします。



●●●二〇〇九年度収支決算報告および二〇一〇年度会計予算案の二報告●●●

第三回総会では、左記の内容で二〇〇九年度収支決算報告及び二〇一〇年度会計予算案のご承認を頂きました。

※卒業生の皆様には本会の趣旨にご賛同頂き、終身会費のご納入を宜しくお願い申し上げます。

09年度収支決算概要

収入	前年度繰越金	1,566,150	終身会費34人分 前会参加費3500円 x 96人
	会費	340,000	
	参加費	126,000	
	寄付金	42,085	
収入計 2,073,235			
支出	会議費	233,444	社会・懇話会費、家計管理費、等
	事業費	33,070	会報誌刊行費
	事務委託費・他	79,735	会報誌郵送料等
	支払計	346,249	
次年度繰越金 1,726,986			

10年度予算概要

収入	前年度繰越金	1,726,986
	会費	200,000
	参加費	175,000
	収入計	2,101,986
支出	会議費	275,000
	事業費	35,000
	事務委託費・他	86,000
	支払計	396,000
次年度繰越金 1,705,986		

●●●第四回同窓会のお知らせ●●●

第三回同窓会は、総会の会場を大垣教区同朋会館講堂で、懇親会を木曾路で行いました。多くの皆さまにご参加いただき、和やかな、そして親密な時間を過ごすことができました。ありがとうございます。

さて、次回の同窓会は二〇一一年の六月十一日(土)午後、場所は教区同朋会館を予定しております。詳細は後日ご案内させていただきますが、特別講義など予定しておりますので、ぜひ、お誘い合わせてご参加ください。



●●●編集後記●●●

今年は「ただこのことひとつ」を講題に藤橋先生からご講義頂きました。

「唯」は、ただこのことひとつという。ふたつならぶことをさらふことばなり。

また「唯」は、ひとりというところなり。「信」は、うたがひなきところなり。

すなわちこれ真実の信心なり。

「唯信沙文意」聖典五四七) 宗教が生活の原点になっていない、お勤めの声がない、仏壇がない。仏法聴聞をしないままに生きてきたせいでと言われドキッ!!

すでに真宗学院を卒業して二十三年になってしまい、益々加速の勢いです。

今現在説法。私の「今」を問われたお言葉でした。今回の同窓会では、会員の皆様が地元根を張り、たくましく生きておられるお姿が眩しく、まことに「このこと」ではないでしょうか。ありがとうございます。



また 来年お会いしましょう!